

改訂新版

リメイク小物で楽しむ

ふだんの着物

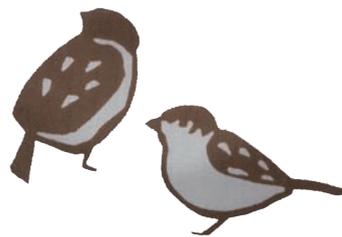
「小物と帯作り、帯結び」

鈴木道子



目次

古着物と遊ぶ	四
一枚の帯地と男襦袢の布地で	六
一枚の帯地で	十
つけ帯に仕立てる	十四
かなりうそつき襦袢	十八
半襟に一手間	二十
帯揚げもアクセント	二十八





羽織地でいろいろ
三十

風呂敷でお出かけ
三十二

「ちよっと持ち」バッグ
三十六

バッグすつきり、便利小物
四十

さらりとまとめて髪飾り
四十二

暮らしの中の着物まわり
四十四

木綿に刺し子
四十九

細帯の変り結び
五十三

作り方
六十八

古着物と遊ぶ



幼いころから着物が好きで、大人になったら着物を着て暮らしたいなあと思っていた。ハレの日に着る繊細で優美なものではなく、普段使いの着物を。

明治生れの祖母がいつも着ていた、ウールや木綿の普段着物が好きだった。早起きだった祖母は毎朝慣れた手付きでささっと着物をまとい、細帯を貝の口にしゃきつと結びと、襟にハンカチを掛け、真白な割烹着を着て立ち働いていた。

時がたち、長じるにつれ、着物にあこがれていたことも忘れ、あわただしく日々を追っていたのだが、数年前それがいきなり再燃した。

きっかけはフリーマーケットで紬風ウールの古着を見つけたこと。クッションカバーにリメイクするつもりで購入し、せっかくだからと解く前に一度着てみた。突然大好きだった着物のイメージが蘇ってきた。





それからはとりつかれたように、古着屋巡りをするようになった。新品のパリッとかたい着物よりも、人肌を通して柔らかくこなれた着物にたまらなく惹かれる。大好きだけど汚れや傷みが激しくて、そのままでは着られない古着は、帯やバッグに仕立て直し、もう一度命を吹き込んで一緒に暮らすのだ。

何を作ろうかとあれこれ考える楽しさは、時がたつのを忘れるほど。新しい姿で蘇ったものたちが、どれほど幸せを与えてくれるかを知っているから。

風呂敷で作った巾着。これは裏布をつけているが、袋状に縫って紐を通すだけでもOK。とっても簡単。

作り方*百四ページ



手ぬぐいで作る 簡単バッグ

浴衣のときはもちろん

洋服だって気軽に持てる

手ぬぐいバッグ。

汚れたら、洗濯機でぐるぐる。

使い込むほどしっとりと落ち着いて、

柔らかな手触りが心地よい。



二枚の手ぬぐいで作った

リバーシブルバッグ。

持ち手を広げてくるんと裏返し。

その日の気分で使い分け。



一枚の手ぬぐいで

作ったバッグの前と後ろ。

でもどちらの柄も可愛くて

気に入っているから両方とも前。

作り方*九十九ページ

バッグすつきり、便利小物

古民具店の店頭で山積みになっている

小さな端布は宝の山のよう。

同じものは、きつと手に入らないのだから
切れ端だって、大事に大事に使っている。

小さめに作った化粧ポーチ。

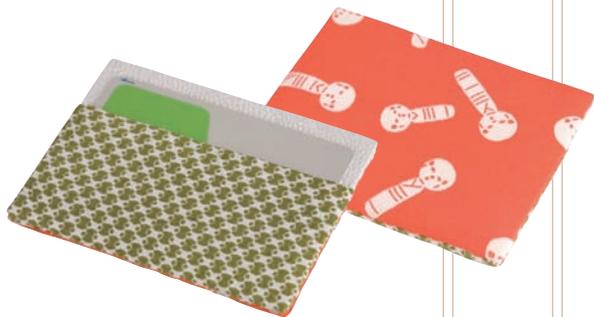
光沢のある薄手の絹は

襦袢地だろうか。

作り方*百六ページ



作り方*百八ページ



ICカードのパスケース。

こけしの顔がちよつと恐くて
妙にかわいい。

いつのまにか溜まっていくカード類。
クレジットカードからメンバーズカード、
ポイントカード等々を、
一つにまとめて使いやすく。

作り方*百九ページ



作り方*百十ページ

巾着形ポーチ。
アクセントに使った
グリーン系の友禅は、
成人式の振り袖の袖を切った布。

男の子の着物を

リメイクした通帳入れ。
小さな愛らしい着物は
お宮参りの晴れ着だった。

作り方*百十二ページ

